



人と地球の未来を考える
コベルコ建機グループ

社会環境報告書 2012

トップメッセージ

特集Ⅰ GEC／五日市工場開設
グローバル最適をコントロールするGEC誕生!!

特集Ⅱ 広島大学との連携
子どもの未来に向け、産学で連携
学生が進める教育活動をサポート

特集Ⅲ 東日本大震災への対応
救援から復興まで経験を生かしの確に被災地を支援

トップ メッセージ

予断を許さぬ事業環境の
中での新たなスタート。
CSR活動を通じて、
より豊かな人と社会とのつながりを。

想定外の激しい環境変化により 鍛えられた変化に強い企業体質

「曇り、ところによって晴れ」。これが現在の建設機械業界がおかれた状況です。

世界最大市場である中国は、今までは快晴でしたが、調整局面に入っており「曇り」。成長著しい東南アジアを中心とする新興国や、震災の復旧・復興需要がある国内市場は「晴れ」の状態と言えます。

しかし、欧州の政府債務危機、円高、新興国市場のインフレリスクなど不安要素もあり、曇り空がいつ突風雷雨に変わるか予断を許さない状況です。市場も事業環境も、ひと言では言い尽くせない変化が起こっています。

2010年度からスタートした中期経営計画も最終年度に入りますが、想定外の激しい環境変化に伴い、追加施策を取らざるを得ない状況です。しかし、それが社内のコストダウンや生産性向上を加速させ、変化に強い企業体質づくりにつながったと考えています。

「ものづくり」と「知恵」に磨きをかけ グローバル展開を図る拠点、GEC

2012年5月22日に、広島市安佐南区の旧本社工場から佐伯区五日市港に事業所を移転し、開所式を行いました。開所式に先立って4月には広島事業所内にGEC（グローバルエンジニアリングセンター）が誕生しました。GEC設立の狙いは2つ。ひとつは、コベルコ建機グループの強みともいえる低燃費・低騒音技術を生み出した「開発力」と、世界中から安価な購入資材を安定的に集める「調達力」、コベルコらしい工夫溢れる「ものづくり力」を継続的に深化させること。もうひとつは、これら3つの力を上手く融合させ、競合他社と差別化した技術で世界中のお客さまに信頼、評価される商品を提供し続けることです。

海外市場の拡大に伴い、当社グループの海外拠点での生産も増大していきます。日本の役割も少しずつ変化していくことになります。成長市場の中に拠点を置き、一定のシェアを確保していくことを怠らない一方で、当社独自の生産技術や開発力という「知恵」の部分は日本で磨きをかけ、モノを売ることだけに頼るのではなく、知恵を売って収益が得られる新たなビジネスモデルの構築をGECで目指します。

企業の使命は社会に価値を提供すること。 社会のために何ができるか、 企業活動を通じてCSR活動を追求

社会も企業も人で成り立っています。企業の事業活動は、社会との関わりの中で行われているのですから、関わる地域に感謝の



気持ちを持ち、社会を良くするために自分は何ができるかを従業員一人ひとりが考え行動する——そんな、身の丈に応じた活動こそが、当社が考えるCSR活動です。

当社のCSR活動の基本は、日々の企業活動を通じて、いかに社会に価値を提供できるか、ということ。例えば、当社の圧倒的な低燃費ショベルは環境にも顧客にも社会にもやさしい製品です。また、防音・防塵技術「iNDR」搭載の極低騒音型バックホウは、国土交通省NETIS（新技術情報提供システム）に登録され、市街地での夜間工事や病院の近隣で行われる工事にも対応する製品として、高い評価をいただいています。東日本大震災で被害を受けた地域にいち早く油圧ショベルをお届けし、被災地が望む製品とサービスを提供し続けることも、当社の役割と言えます。

このように「低燃費・低騒音のコベルコ」として評価される製品を通して社会に価値を提供し、その価値が社会に受け入れられるという好循環が生まれれば、私たちも社会と共に成長していくことができます。続けてこそそのCSR活動ですから、普段の社会生活の中で、また仕事を通じて、人とのつながりを大切にすることがCSR活動につながれば、最高だと思っています。

2012年度は、コベルコ建機グループにとって新たなスタートラインに立つ年でもあります。個々人の幸せ、社会との共存、企業の発展が無理なくひとつの輪になること、社会とお客さまに価値を提供できる企業、社員が誇りと喜びを分かち合える企業として、歩んでいく所存です。

コベルコ建機株式会社 代表取締役社長

河 岡 純

CSR Message

人と地球の未来を考える、
コベルコ建機グループのCSRメッセージ

Message.1

コベルコ建機グループは、
これまで環境問題に取り組んだなかで
培ったノウハウを活かし、
私たちならではの
地球環境保全を行っています。

Message.2

コベルコ建機グループは、
「人と地球の未来を考える」を
コンセプトに、
地域社会への貢献と
地域住民の方々との共存に
努めています。

Message.3

コベルコ建機グループの社員は、
より良い未来の実現に向け、
共に泣き、笑い、励まし合いながら
進んでいくパートナーであり、
大切な仲間です。

CONTENTS

01 はじめに

トップメッセージ／CSRメッセージ／コベルコ建機グループのCSR

03 特集Ⅰ GEC／五田市工場開設

グローバル最適をコントロールするGEC誕生!!

05 特集Ⅱ 広島大学との連携

子どもの未来に向け、産学で連携
学生が進める教育活動をサポート

06 特集Ⅲ 東日本大震災への対応

救援から復興まで経験を生かしの確に被災地を支援

07 環境保全活動報告

環境マネジメント／環境を守る製品開発のあゆみ／製品開発
ライフサイクルに沿った環境対策／環境数値

11 社会・地域活動報告

活動理念／CSR基金／継続的活動／2011年度CSR賞受賞!

15 ステークホルダーとの関わり

品質保証／ユーザーサポート／職場づくり／人づくり

17 コーポレートガバナンス／コンプライアンス

コベルコ建機グループの概要／編集後記

●報告書の対象に関して

- 【対象組織】 コベルコ建機株式会社および、
グループ関連企業を対象としています。
【対象期間】 2011年4月1日～2012年3月31日
(一部2012年4月1日以降の情報を含む)
【報告書発行】 2012年5月

コベルコ建機グループのCSR

コベルコ建機グループは、建設機械づくりの視点から、また企業としての立場から、地球と人にやさしい活動を続けています。
CSR組織体制を整え、活動方針・活動ポリシーに従って、グループをあげてCSR活動に取り組んでいます。

CSR活動方針

私たちは持続的成長の実現を通じて、人と環境にやさしい循環型社会の創出に取り組んでいます。また、コベルコ建機グループに脈々と流れる心情を受け継ぎ、CSR活動を通して社員一人ひとりがさらに磨かれ、成長するきっかけにしていきます。

これらの活動は、次の3つの方針に基づいています。

- ①コベルコ建機グループは私たちならではの地球環境保全を行います。
- ②コベルコ建機グループは、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めます。
- ③コベルコ建機グループは、社員と共により良い未来の実現に向けて進んでいきます。

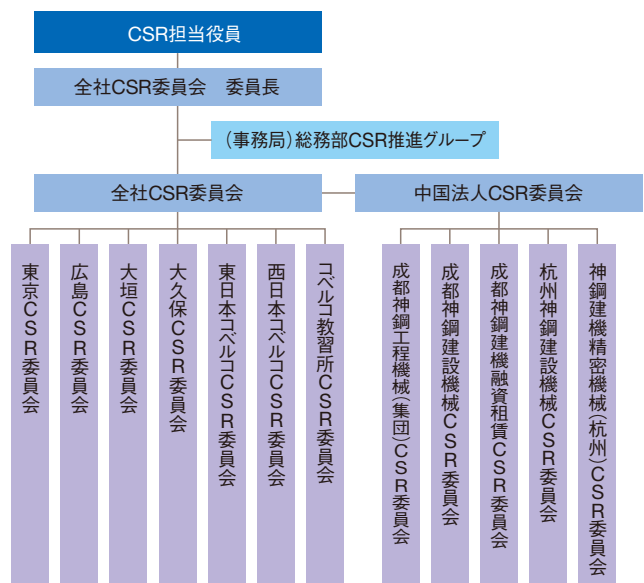
CSR活動ポリシー

- 人道主義的でコベルコ建機グループの存在感を増すものであること。
- 身の丈に応じた活動であること。
- 事業を展開している地域での活動であること。

この3つのポリシーに従って、さまざまなCSR活動を進めています。活動内容においては、単に金銭的な寄付をするのではなく、身近な人々や、事業を展開させていただいている地域での、心が通じ合うような活動や支援を大切にしています。コベルコ建機グループの建設機械がいるそばで、コベルコ建機グループのプレゼンスを高めていける活動の一つひとつを行っていききたいと思います。

CSR組織体制

コベルコ建機グループは、2006年度に事務局となるCSR推進グループを発足させて以来、グループ全社・全従業員へCSR活動の輪が広がるよう、組織体制を見直しながら取り組んできました。活動の中核を担うCSR委員会は、CSR担当役員を筆頭に全社各部門の中堅、若手社員から選出されたメンバーで構成され、CSR活動の推進、新規案件の抽出、地域・社会貢献活動の支援などを担当しています。



グループ内で横断的に機能 グローバル最適をコントロールするG

開発・調達・生産。 全世界をまとめる司令塔「GEC」

2012年4月、コベルコ建機グループは、グループ全体の開発・生産をグローバルに包括し最適化する司令塔機能として、グローバルエンジニアリングセンター（GEC）を発足。同年5月には、広島市安佐南区の旧本社工場から佐伯区五日市港へ移転し、世界最高水準の生産性と競争力を実現する五日市工場と共に本格稼働を開始した。

本社工場移転については2007年には、既に水面下で検討が始まっていた。当時は新興国市場が拡大し、業界各社も増産に向けた大きな舵取りを始めていた時期。コベルコ建機グループも大幅な増産体制を確立すべく本社工場移転の検討を進めていたが、2008年に起きたリーマンショックに端を発した世界的な金融危機やそれに伴う急速な景気後退など、次々と起こる事業環境の急激な変化を受け、計画延期や見直しを迫られることになる。

こうした逆風に耐えながら、事業を将来にわたって継続していくために、次世代に向けた新しいコンセプトづくりを進めてきた。そして生まれたのがGECというコンセプトだ。GECには2つのテーマがある。ひとつは「世界中のユーザーから信頼される製品の開発を日本で行い、生産・販売拠点へ発信すること」。もうひとつが、「全世界生産拠点のものづくり力強化に向け、GECが技術・技能の発信基地となること」。大きな環境変化の波が押し寄せる中、明確なビジョンでGEC設立の根幹ともいえる考え方がぶれることなく、着実に計画を深化・バージョンアップさせ設立を迎えたことは、コベルコ建機グループにとって非常に意味のある歴史的な一歩となった。

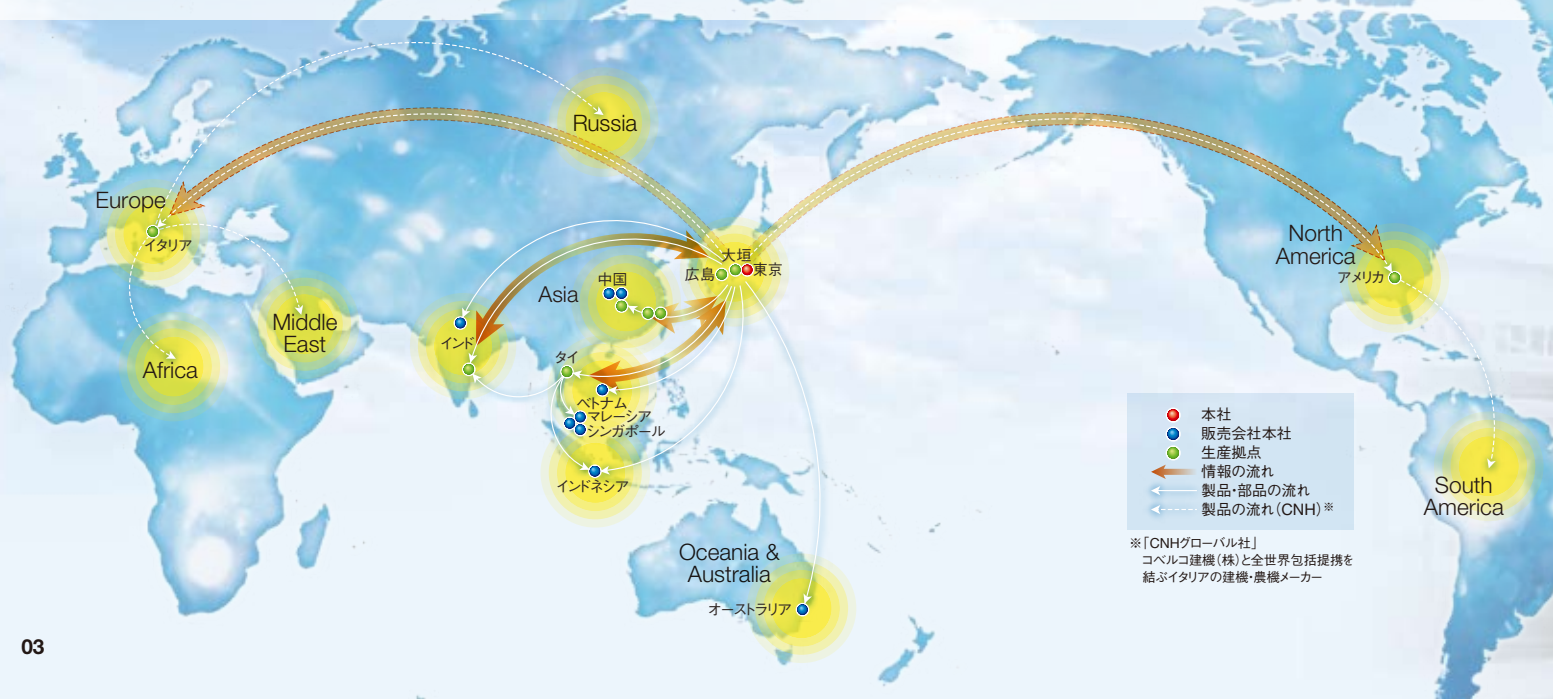
こうして生まれたGECは、開発・調達・生産技術の3部門を中心に構成され、各部門が相互連携し製品開発・ものづくり・サプライ



チェーンを最適化する。それを下支えるのが、GECに併設される総合研修センターと先行技術センターだ。総合研修センターは、コベルコ建機グループのものづくりや、サービスのグローバル化を支えるキーマンや次世代のリーダー育成に大きな役割を果たす。先行技術センターは、製品開発の要となる開発ベンチテストや試作組立・テストの設備を持ち、コベルコ建機グループを代表する低騒音・低燃費技術のさらなる強化と、開発リードタイムの短縮を担っている。蓄積された技術や知恵は、世界中に広がる生産拠点へと配信され、グループ全体での相乗効果を生み出すのが、GECの最大の狙いとなる。

高い生産性と環境保全を両立した「五日市工場」

一方、最高水準の生産性と競争力の実現を目指す五日市工場のコンセプトは意外なものだった。「Smart&Clean!」。このコンセプトだけを見ると、環境保全をメインの目的とした言葉にも見えるが、これこそがコベルコ建機グループのものづくりを支える、独創的な発想の源である。2008年に行われた改善活動（K30D）では、「楽（ラク）して」、「楽しく」をコンセプトに掲げ、作業員自らが発案し、自分たちのために改善した。すると徐々に職場や作業が快適に



EC誕生!!



なる。周囲から評価され、モチベーションも高まる。K30Dは、改善活動の本義ともいえる正の連鎖を生み出し、生産性30%向上を実現した。五日市工場のコンセプトは、まさにこのK30Dの進化版と言える。安全で快適な、だれもが働きたくなる職場をつくり、人に誇れるものづくりをする、そういう意味を込めた「Smart&Clean!」なのだ。

工場内を見渡すと、職場環境や安全性、エコに対するさまざまな工夫がされている。柱や床を白色塗装にし、自然光を取り込むことにより、明るくクリーンな室内にした。天井はダブル折板化することにより、約5℃の断熱効果が得られる。従来、部品搬送にはフォークリフトを使っていたが、五日市工場ではAGV（無人搬送車）や牽引車を導入し、搬送効率の向上とCO₂排出量の削減にも寄与している。

本社工場の移転に際し、取り組んできた活動はほかにもある。これまで沼田工場で生産していた大型ショベルの組立ラインを、五日市工場へ集約。沼田工場は部品など製缶工場として再編する計画である。これにより、これまで複数の工場に分散していた組立・製缶工程が整理され、完成機や部品の工場間輸送が大

幅に減り、生産性の向上とCO₂削減効果が得られる。また、ミニショベルを生産する大垣工場でも、組立ラインを中心とした工場リニューアルを実施。「歩かない」「探さない」「仮置きしない」「重たいものを持たない」をテーマとした生産性の向上と、自然換気や粉塵対策による職場環境改善などを行った。

GEC・五日市工場開設による、ものづくり改革は、グローバル最適生産というアウトプットを生み出し、付加価値の高い製品をより早く世界中の顧客のもとへ届けることにつながる。それは、社会とコベルコ建機グループの好循環を生み出し、共に大きく成長する礎となるであろう。

コベルコ建機（株）と地域の共存・共栄に期待しています

中田 英樹氏
広島市佐伯区 区長



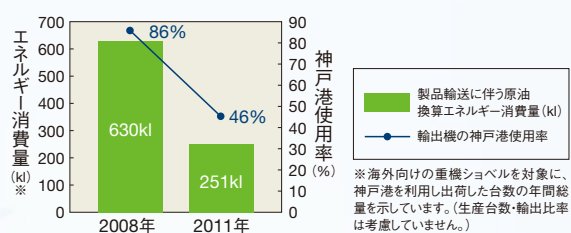
VOICE

コベルコ建機株式会社の広島本社移転および五日市工場の開設、誠にありがとうございます。世界最高水準の生産拠点が、ここ広島市佐伯区に誕生することは、地元としてもこの上ない喜びでございます。御社との関係は2010年に近隣小学校児童を重機船積み見学させていただいた時からです。「海外貿易の役割や重要性」と「ふるさと意識の高揚を図る」ことについて学習することができ、子どもたちには貴重な時間になったと思います。

五日市工場の開設を機会に、今後、御社と行政および地域とが連携し、新しい街づくりが展開されることを今から楽しみに思っています。地元へ根ざした企業として地域との共存・共栄を目指していただき、御社の発展とこの佐伯区がさらに元気で活力ある、だれもが「誇り・愛着・絆」を感じられる街になることを期待しております。

■物流改善

コベルコ建機グループは、GEC/五日市工場開設に先駆け2009年に特定輸出申告制度を導入。製品を輸出する港を神戸から広島市の五日市地区に移すことによりCO₂削減に努めています。



子どもの未来に向け、産学で連携 学生が進める教育活動をサポート



中学生レスキューロボットコンテスト

「学生が企画運営する中学生レスキューロボットコンテストに協力していただけませんか?」。以前から油圧ショベルの要素技術の共同研究を行っていた広島大学から相談を受けたのが2008年。当時、教育学研究科を担当されていた山本透教授(現・工学研究院)からの相談であった。すでに「子どもの理科離れを防ぐ」をテーマにCSR活動を推し進めていた広島CSR委員会が、コンテストの目的である「ロボット技術と生活の関係へ理解を深め、ロボット製作を通じて課題に対する創意工夫と粘り強い姿勢を育てる」ことに賛同し、瞬時に意気投合したのは言うまでもない。

コンテストは、広島県内の中学校から毎年約20チームが集まり、災害現場を模したレスキューゾーンから被災者であるダミー人形を安全に、素早く救出する競技であるが、おもしろいのはその評価方法である。救出時間に加え、ダミー人形に与えた衝撃や、命へ対する考え方、精神的ケアなど、ロボットに盛り込まれたアイデアとプレゼンテーションを総合的に評価するのだ。

準備中も運営中も、学生はさまざまな問題に直面するが、山本教授は「企業の知識で少しかフォローすることで、学生だけの運営に比べ、より多くの貴重な経験をすることができる」と言う。競技に出る中学生、運営する大学生、指導する企業が互いに刺激しあい学べる環境がこのロボットコンテストにあるのだ。



マレーシアの森林保護に向けた教育支援

熱帯林は生物多様性の宝庫で、地球上の生物種の半数以上が生息していると考えられているが、森林伐採により近年著しく減少している。マレーシアでも、経済発展に伴い、プランテーション(ゴム、パームヤシ)への開墾などで原生熱帯林が急速に失われている現状があるが、その背景には現地で生活する人々の収入源という、非常に難しい問題があり、客観的に否定することもできない。

生物多様性の意義と森林生態系保全に関する研究を行っている広島大学総合科学研究科奥田敏統教授は、マレーシア森林研究所と共同で維持しているパソ保護林の森林観察設備へ、現地の子どもたちを招待する活動を続けている。森林資源の素晴らしさを肌で感じてもらい、経済発展を続けながらも森林資源を守ることの大切さを、子どもたちやその家族に考えてもらうための地道な活動だ。

コベルコ建機グループはこの活動に共感し、老朽化した森林観察設備(ブリッジ)の修繕費の寄付や見学会の運営サポートを2011年より開始した。企業としてできるサポートは、ほかにたくさんあるだろう。しかし、現地視察を行ったコベルコ建機グループ担当者は、少しでも多くの子どもたちが参加し、安心して森林観察と生物多様性の魅力や価値を学べる環境づくりが、現在の急務であると考えた。地道な取り組みかもしれないが、広島大学、奥田教授との連携を深め、継続的に活動を展開していくことが、将来の環境保護にとって何よりの近道となるだろう。

コベルコ建機グループの CSR活動は本物!

岡本 哲治氏
広島大学 理事・副学長
(産学社会連携・広報・情報担当)
※写真は岡本氏(左)/奥田教授(右)



VOICE

2011年3月4日、マレーシア・パソの熱帯林保全地域で、地上10~20mに張り巡らされたキャノピー・ウェイ上に、私は、コベルコ建機(株)の奥田さん・田中さん・中平さん、広島大学の奥田教授と大学院生と共にいた。奥田教授がマレーシア森林研究所と推進しているパソ熱帯林の保全活動と、その観察設備へ現地の子どもたちを招待する活動を、コベルコ建機グループが支援してくれるかもしれないと言うのだ。私は、企業の要職の人たちがどうしてここまで来るのか?という疑問を抱いていた。が、結果的に「中学生レスキューロボットコンテスト」に加えて、この活動も「コベルコ建機基金」※としてご支援していただくことになった。コベルコ建機グループのCSR活動は本物だと感じた。

※広島大学がコベルコ建機(株)の寄付金を原資に設立した基金



特集Ⅲ 東日本大震災への対応

救援から復興まで経験を生かした的確に被災地を支援

支援活動が強くした地域の絆

宮城県牡鹿半島沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震。この地震で発生した大津波は、長年コベルコ建機グループと密接な関係のある地域や取引先にも、多大な被害を与えた。

コベルコ建機グループは、即座に災害対策本部を設置。被災状況や従業員・家族の安否確認を行った後、阪神淡路・中国四川の大震災の経験を生かして被災地の状況に合わせた支援を展開した。グループ各社・各事業所で救援物資を調達し、千葉県市川市の販売会社本社に集約。被災地支援の中心拠点となる宮城県岩沼市の支社へ配送した。現地へは、本社や各拠点から応援要員を派遣し、被災した従業員や営業拠点の近隣住民、関係取引先、地域の行政機関などへ救援物資を提供した。

震災発生の1週間後には、ライフライン復旧や行方不明者捜索に必要な建設機械7台(コベルコクレーン(株)からの1台を含む)、計7,700万円相当の寄贈を決定し、5月に岩手県へ、11月に福島県へ寄贈した。また、震災直後から国内外のグループ従業員に義援金を募り、海外の取引先も含めた多くの有志から約1,900万円もの厚意が寄せられた。

こうした支援の中、心温まる出来事もあった。四川大地震で学校が倒壊し、コベルコ建機グループが再建・寄贈した中国四川省彭州市慶興神鋼小学校から、日本の子どもたちに手紙と義援

■主な支援内容

年月	支援内容
2011年3月	■グループ各社から集まった救援物資とともに震災復興用の油圧ショベルを被災地に向けて出荷。 ■総額7,700万円相当の建設機械7台の寄贈を発表(コベルコクレーン(株)1台を含む)。 ■中国成都の現地法人の代表が、四川省彭州市慶興神鋼小学校の生徒などより激励の手紙と義援金(32万円相当)を受領、被災地小学校への受渡しの要請を受ける。
2011年5月	■岩手県へ、油圧ショベル2台、コンバインドローダー1台、クレーン1台(コベルコクレーン(株))を贈呈。 ■国内外グループ従業員(OB含む)、関係取引先など有志一同から義援金約1,900万円が集まる。
2011年6月	■中国CSR委員会にて慶興神鋼小学校生徒の日本語訳の手紙文集「がんばれ東北」を作成。 ■慶興神鋼小学校の皆さまより預かった手紙や義援金に加え、有志一同からの義援金と合わせ100万円を宮城県岩沼市立玉浦小学校へ引き渡し。 ■復興支援のサービス拠点として「三陸出張所(現 宮古出張所)」を新設。
2011年9月	■宮城県岩沼市へ有志一同の義援金のうち1,100万円を贈呈。
2011年11月	■福島県へ油圧ショベル2台、ホイールローダー1台を贈呈。 ■東日本コベルコ建機(株)にて、「秋の大展会」を開催し、東北地方の物産販売やチャリティーオークションを実施。
2012年3月	■復興支援のサービス拠点として「気仙沼出張所」を新設。



岩手県での寄贈機贈呈式の様子

金が寄せられたのだ。預かった手紙や義援金は、従業員からの義援金の一部も加えて、慶興神鋼小学校の子どもたちの思いと一緒に、岩沼市立玉浦小学校へ渡された。その他の義援金は、岩沼市や、被災したグループ従業員へ寄付されている。

現在は各営業所において、地域や関係取引先と連携をとりながら継続的な支援体制を整え、コベルコ建機グループの建設機械が1日も早い被災地復興に役立つよう尽力を続けている。



慶興神鋼小学校からの手紙・義援金引き渡しの様子(岩沼市立玉浦小学校)



復興への思いに強い気持ちで応えたい

富田 隆司
東日本コベルコ建機(株) 仙台営業所 所長



VOICE

阪神淡路大震災のとき、社員寮で被災し、寮は全壊しました。凄惨な被災現場での生と死、自然災害の恐怖を目の当たりにし、生きる意味や人生のあり方を考えさせられました。今回の東日本大震災は、当時がフラッシュバックしたような衝撃でした。

私は震災翌週より支援物資と共に仙台へ入り、物資の受け入れ・仕分け作業に従事。翌月から仙台営業所長として復旧・復興支援を続けています。家族や社員、機械を失ったお客さまが、痛ましい惨状に負けず復興・発展の希望と信念を持って行動する姿に、逆に勇気をもらうことも多い毎日です。この1年間で、会社・組織の絆がさらに強くなり、全社一丸となった支援体制に支えられてきたと感謝しています。今後も相手の立場で考えることを心がけ、不退転の強い気持ちで努めていきます。

地球のみどりのために

地球環境を守るために、環境にやさしい製品づくりはもちろんのこと、製造過程を含むライフサイクル全体で環境に配慮した事業活動を進めています。



標高4,310mでの高地テスト



ハイブリッドショベル稼働現場



組立ライン(タイ)

環境マネジメント

開発から物流まで 環境に配慮したもののづくり

環境経営基本方針

コベルコ建機グループは「地球環境改善に積極的に取り組むことが全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命である」と認識したうえで、このかけがえのない地球を守るために、「環境経営基本方針」を制定し、事業活動のあらゆる面において環境に配慮する「環境経営」の推進に努めています。別途、グループ各社でも個別の「環境管理方針」を制定しています。

■環境経営基本方針

グループ環境経営の実践による企業価値向上

コベルコ建機グループは、グローバルな環境先進企業、持続して成長する企業、人間の幸福を実現する企業を目指し

- ① 環境に配慮した開発・生産活動
- ② 製品・サービスでの環境への貢献
- ③ 社会との共生・協調

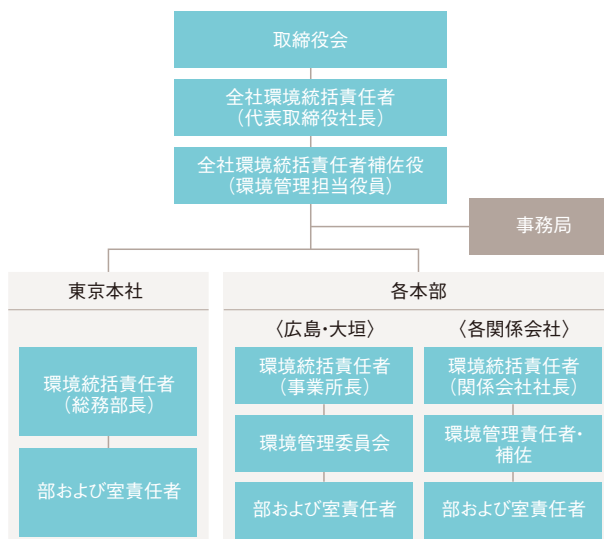
を実践することにより、社会的責任を果たすとともに、企業価値を高めます。

環境管理規程

コベルコ建機グループでは、環境関連法令の遵守はもとより、環境保全が企業の社会的責務であるとの自覚に基づいた上で、環境に十分配慮した事業活動を行っています。環境管理規程を定め基本的事項と本社部門および各事業所のそれぞれの果たすべき役割を明確にし、規程をもとに、グループ全体での環境活動を推進しています。

環境管理体制

コベルコ建機グループでは、東京本社をはじめ、各本部、部署、事業所などから環境統括責任者を選出。また、全社の環境管理を統括する環境管理事務局を設置することにより、環境管理体制の強化と全社的な環境マネジメントを実施しています。



環境リスク管理・環境監査

コベルコ建機グループは、全ての生産工場および拠点に環境リスク管理体制を構築し、環境監査の強化に努めています。また、大気、水質、振動、騒音、廃棄物、化学物質、エネルギー、危険物、施設・設備等のチェック項目を設定。各事業所において対象項目が関係法令等に定められた基準を満たしているか、定期的な環境監査を行っています。

1980年

環境問題に早くから着目し、国産初の固定式ニブラ装着自動車解体機を開発。これにより自動車解体作業環境が大きく改善され、安全性・経済性が飛躍的に向上した。



1989年

当時のクラスストップレベルの低騒音70dB(A)/7m(SK200)を実現した都市型油圧ショベル「アセラシリーズ」を発売。

1977年

静破碎工法ニブラを開発。当時の解体工事の常識を破る低騒音・安全性・作業性は、関係省庁や解体業界に大きな反響を呼ぶ。



1987年

電子制御方式を初めて採用した「ニューマークIIシリーズ」を発売。

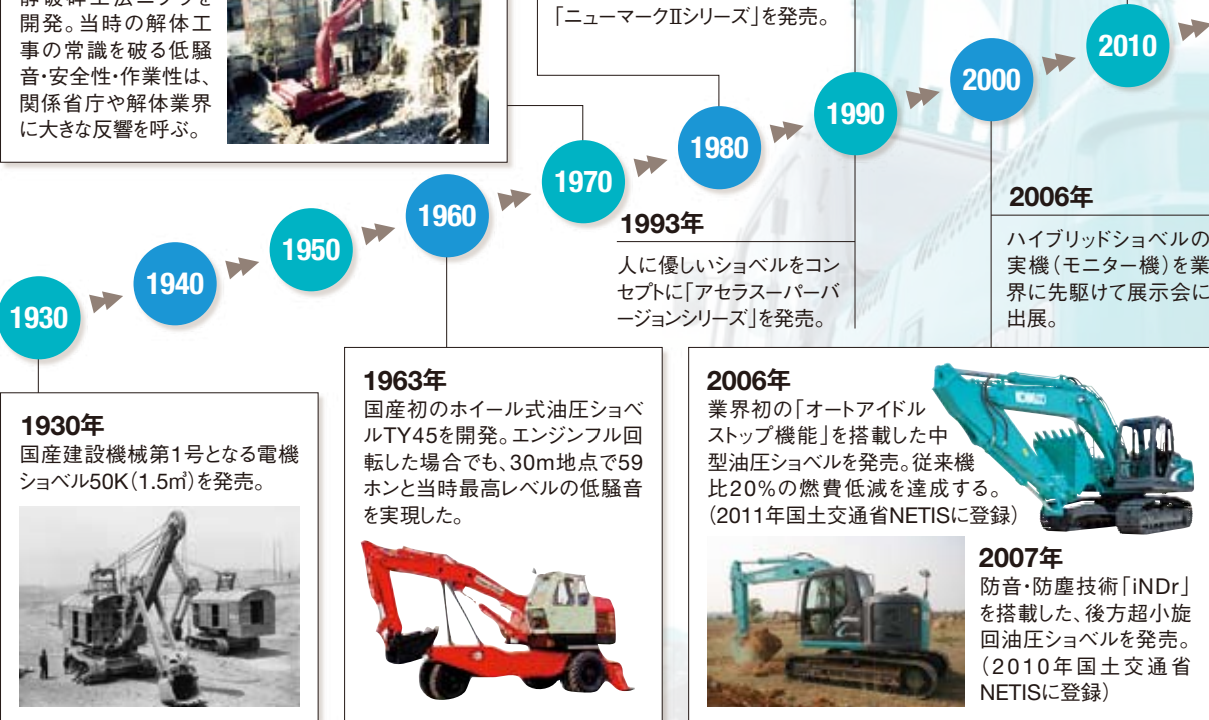
1993年

エンジンや家電のリサイクルを想定し、左右開閉式クランプアームを搭載したマルチ解体機を開発。



2010年

通常型7tショベルに比べ、燃料消費、CO₂ともに40%の削減を達成した、本格ハイブリッド油圧ショベル「SK80H-2」を発売。(同年、地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞)



製品開発

低燃費を追求し
総力を上げた製品開発

コベルコ建機グループは従来から、ユーザーの立場に立って製品開発を進めてきました。特に力を入れてきたのが低燃費型油圧ショベルの開発です。省エネによる燃料費削減を実現すると同時に、排出するCO₂の削減に大きく貢献しています。

(株)神戸製鋼所 西神研究所の協力を得るなど、神戸製鋼グループの技術の粋を結集した代表的な製品が、2006年に発売開始したアセラジオスベックや、2010年に地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受けたSK80H-2ハイブリッドショベルです。従来機比20%の燃費削減を実現したSK200-8は、実際にユーザーのもとで年間数十万円以上の燃料費節減につなげています。今後も、低炭素型社会の実現に向けて、さらに進化した低燃費型建設機械の商品開発を進めていきます。

未知の領域を求めて
ハイブリッドショベルを開発

山下 耕治

コベルコ建機(株) グローバルエンジニアリングセンター
要素開発部 先行技術開発グループ マネージャー



VOICE

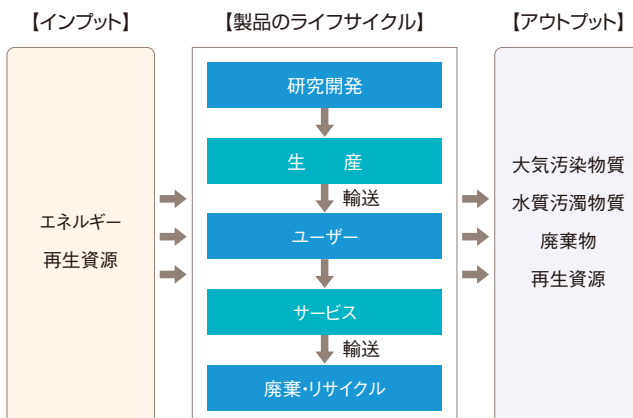
私たちは、さらに進化した低燃費型油圧ショベルの研究・開発を進めていますが、特にハイブリッドショベルについては、将来のCO₂規制の導入や燃料費高騰を見据えて、ハイブリッドでなければ達成できない域の環境性能を目指して開発を推進しています。

実は、コベルコ建機グループの油圧ショベルは標準機でも、すでに競合他社のハイブリッド機に勝るとも劣らない低燃費性能を発揮しています。となると、新たなハイブリッド機は、さらに際立った低燃費性能を実現する必要があり、新しい研究開発と新しい機能の商品化が求められます。近い将来、群を抜いた低燃費性能を誇る我々のハイブリッドショベルが世界中で活躍する姿を目指して、開発チーム一丸となって取り組んでいます。

ライフサイクルに沿った環境対策

ライフサイクル全域をカバーする 多彩な環境対策を実施

優れた環境性能を持つ製品であっても、生産、輸送、アフターサービスなどさまざまな場面でCO₂や汚染物質の排出を伴います。コベルコ建機グループは、こうした排出物が環境へ与える影響を少しでも低減できるように、製品開発からアフターサービス・部品リサイクルに至るまで、製品のライフサイクルに沿った環境保全活動を推進しています。また、ユーザーの手元で使用されている間も、製品が最大限の能力を発揮し、燃費低減や騒音低減につながるよう、操作方法やメンテナンス方法のアドバイスも行っています。



塗着効率の向上

油圧ショベルの塗料には揮発性有機化合物（VOC）が含まれ、塗装時の揮発・飛散は大気汚染の原因になります。これまで旧本社工場（広島市安佐南区）では飛散を減らすため、塗着効率の改善活動を行ってきましたが、5月に開所した五日市工場では静電ガンを導入し、改善前比で塗着効率2倍を実現しました。これにより、大気中に出るVOCの量が半減。塗料の使用量そのものも減ることで、塗料の缶などの廃棄物や、大気中の不純物を取り除くフィルターも大幅に削減できることになります。



※写真は旧本社工場のものです。

ヒューム回収装置、排気ファンの設置

金属を溶かし接合する溶接作業では、ヒュームと呼ばれる微細な粉塵が発生します。これを長時間吸引すると人体に悪影響を及ぼすため、溶接作業やその周囲で作業する従業員には、防塵マスク着用徹底に努めてきました。新設した五日市工場の製缶ラインでは、ロボット溶接工程にヒューム回収装置を設置。また、建屋全体にも排気ファンを配置し、場内で働く作業員の健康管理と共に、屋外へ出る粉塵の抑制に努めています。



※写真は旧本社工場のものです。

自然の力を活用した大垣工場

2012年1月にリニューアルした大垣工場では、さまざまなエコアイデアを導入しています。屋根をダブルパック化し遮熱した上、天井と床の温度差を利用した自然換気システムを導入。夏の暑さ対策に自然の力を利用しました。さらに明かり窓の設置や、現在主流の蛍光灯に比べ消費電力を20%抑える省エネタイプの蛍光灯の導入により、電力使用量の削減に努めています。こうした取り組みは、将来行われる国内外工場のリニューアルや増築においても、水平展開できるように推進していきます。



廃棄ゴムクローラ類のリサイクル推進

（社）日本建設機械工業会は、2008年12月より廃棄物処理法に基づき、建設機械走行装置に使用されているゴムクローラ類の適正廃棄処理や再資源化を目的とした、廃棄ゴムクローラ類の広域リサイクルシステムを始めました。本システムは、環境省の認定ルートで処理されるものであり、環境負荷軽減だけでなく、コンプライアンスにもつながるものです。コベルコ建機グループも、継続的に本システムをお客さまへ紹介し、これまでに約60.8トンの廃棄ゴムクローラ類のリサイクルを行いました。



リユース・リサイクル

エンジン・油圧ポンプ・油圧シリンダーなどの使用済み機器を、新品同等の品質に再生して使用できる「DCユニット 再生部品交換プログラム」の使用を推進しています。機器を再生することにより廃棄物削減や資源節減に貢献できる上、費用的にも低価格での供給が可能となりました。



物流改善によるCO₂削減

コベルコ建機グループは2009年10月に特定輸出申告制度を導入し、徐々に物流拠点を神戸港から広島市の五日市地区に移しています。これにより、工場から近い五日市港から直接、輸出できるようになり、五日市出荷場から輸出貨物船への輸送が迅速かつ円滑になりました。結果、リードタイムや物流コスト、大幅なCO₂の削減を達成しました。2011年度は、原油換算で年間223キロリットル※(ドラム缶約1,115本分)の省エネ効果が出ています。※特定荷主定期報告書に基づく当社試算



部品のモダリティシフト化

2009年5月から行っている部品輸送のモダリティシフト化(トラック輸送から鉄道輸送への切り替え)を、2010年3月から大幅に拡大しました。この取り組みにより、CO₂の排出量削減に大きな効果を発揮しています。また、過去1年間の省エネ効果は原油換算で16.76キロリットル(ドラム缶84本分)にもおよび、輸送コストの削減と共に、化石燃料への依存率の低減につながっています。微力ながら、道路混雑の緩和や交通事故の減少、トラックの運転士をはじめとした労働力の問題へも貢献しています。



低燃費の標準機「アセラジオスペック」

2006年より、従来機に比べ、燃料消費量・CO₂排出量ともに20%(20トンクラス)の低減を達成した「アセラジオスペックシリーズ」を販売しています。エンジン制御、油圧システムの圧力損失などを徹底的に見直し、エネルギー損失を最小限まで抑えた制御システムと、作業休止時にエンジンが自動停止するオートアイドルストップ機能により、驚異的な環境性能を生み出しました。現在もお客さまから大変好評をいただいております。低燃費のコベルコを代表する技術となっています。



常識を超えた極低騒音「iNDR」

油圧ショベルは市街地の建設現場や道路工事で利用されることも多く、住宅や病院、学校などの周辺では、特に騒音に対する配慮が求められます。コベルコ建機グループでは、エンジンルームを密閉に近い状態にすることで、機体外部へ漏れる運転音を最小化した独自の冷却システム「iNDR」を開発しました。この冷却システムを搭載する標準型油圧ショベルは、従来機比で-10db※を達成し、市街地での騒音低減に貢献。2010年には国土交通省のNETISに登録されました。※機体左側面での当社比較値



DATA

環境数値

事業活動に伴う排出量

コベルコ建機(株)広島事業所

主要製品:建設機械、運搬機械、自動車、自動車関連機械器具・部品

■大 気

項 目	設 備	規制値	実測値
NOx	該当なし	該当なし	—
ばいじん	該当なし	該当なし	—
ダイオキシン類	該当なし	該当なし	—

■水 質

項 目	規制値	実測値(平均値)
COD	該当なし	—
SS	該当なし	—
油分	5	1.0
ダイオキシン類	該当なし	—

■化学物質

物 質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大 気	公共水域	土 壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	108,700	0	0	0	0	29,800	塗装
トルエン	16,200	0	0	0	0	9,300	塗装
エチルベンゼン	31,700	0	0	0	0	3,570	塗装

■大気データ

※規制値:大気汚染防止法、県条例、ダイオキシン類対策特別措置法

※単位:NOxはppm、ばいじんはmg/Nm³、ダイオキシン類はng-TEQ/Nm³

※規制値は、対象施設ごとに決められています。

※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。

※硫酸化合物、カドミウム、塩素、塩化水素、フッ素、フッ化水素、およびフッ化炭素、鉛、ベンゼン、トリクロロエチレン、ダイオキシン

■水質データ

※規制値:水質汚濁防止法、県条例、ダイオキシン類対策特別措置法もしくは市下水道条例、協定値

取扱物質総数 4



詳しい環境数値は、WEBをご覧ください。

コベルコ建機 CSR

検索

<http://www.kobelco-kenki.co.jp/csr/environment/index.html>

コベルコ建機(株)大垣事業所

主要製品:建設機械及び部品

■大 気

項 目	設 備	規制値	実測値
NOx	該当なし	該当なし	—
ばいじん	該当なし	該当なし	—
ダイオキシン類	該当なし	該当なし	—

■水 質

項 目	規制値	実測値(平均値)
COD	30	1.73
SS	40	1.0未満
油分	5	1.0未満
ダイオキシン類	該当なし	—

■化学物質

物 質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大 気	公共水域	土 壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	15,794	0	0	0	0	11,388	塗装
トルエン	26,231	0	0	0	0	3,534	塗装
エチルベンゼン	23,263	0	0	0	0	1,372	塗装

※単位:mg/ℓ、ダイオキシン類はpg-TEQ/ℓ

※ND:分析定量限界値以下(検出されない)

※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。

pH、BOD、全窒素、全リン、フェノール類、総クロム、溶解性鉄、溶解性マンガン、フッ素、銅、亜鉛、カドミウム、総シアン、有機リン、鉛、六価クロム、塩素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チラウム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン

■化学物質

※単位:kg

取扱物質総数 4

地域の暮らしとともに

企業活動の土台となる地域の方との交流や、地域密着型の支援活動により、地元に根ざした企業としての存在価値をより高めることを目指しています。



しながわ夢さん橋



東日本大展示会職場体験コーナー



日本人補習校工場見学(インド)

活動理念

地域に根ざし 地域と共に成長を目指す

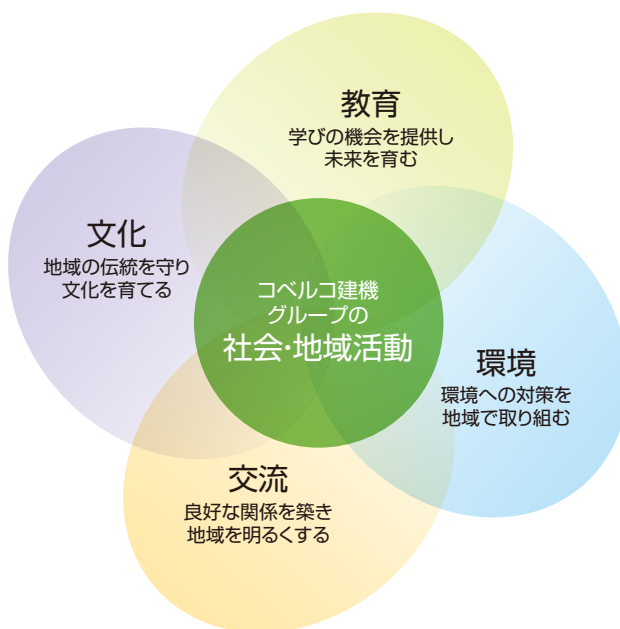
コベルコ建機グループは、「人と地球の未来を考えるコベルコ建機グループ」の活動コンセプトのもと、国内だけでなく、中国や東南アジア、インドなどコベルコ建機グループが事業を展開している国々において、その地域に根ざした貢献活動を行っています。活動は、文化、教育、環境、交流の4つの視点で実施され、地域のよりよい暮らしづくりや、地域とコベルコ建機グループとの関係づくりに役立っています。各拠点では、従業員が実際に足を運んで現地の声に耳を傾け、私たちにできる“身の丈にあった活動”を積極的に展開しています。

2011年度は、東日本大震災の災害復興支援に取り組んだり、地域の子どもたちを集めたショベル試乗会や地域清掃活動などを定期的 to 実施したりしました。地域で愛され親しまれながら、地域と共に成長することを大切に考えています。

CSR基金

社員が提案する活動を支援し 自発的な社会貢献を促す

社会全体への貢献活動を推進するため、2006年度に「コベルコ建機CSR基金」を設立しました。コベルコ建機グループが事業を展開する国内外の地域を中心に、さまざまな支援を続けています。対象は、社内公募の活動の中からコベルコ建機グループのCSR活動の理念に合致するものが選ばれます。これまでに、地域社会への支援、地球環境の保護、人材育成などの活動をサポートし、2011年度も、中学生レスキューロボットコンテスト、マレーシア森林保護活動の支援、またブラジル人学校HIRO学園の日本語教育支援など、幅広い活動を行いました。



建設機械を通じて 東日本に元気を届けたい

本廣 祥朗
東日本コベルコ建機(株) サービス部



VOICE

「がんばろう東日本!〜力をひとつに、コベルコから元気を〜」。これは2011年11月、東日本コベルコ建機(株)で開催した大展示会のタイトルです。このタイトルには「大震災に負けず、いまこそ力を合わせて元気を届けよう!」という社員一同の気持ちが込められていました。当日は、全国各地より予想を上回る多数のお客さまをお迎えし、特にお子さま向けのキッズコーナーやCSRコーナーでのカレンダー作成は長蛇の列ができるほどの大盛況。お客さまと一体となって行った東北応援物産展やチャリティーオークションも人気を博しました。会場内のいたるところにお客さまの笑顔があふれ、逆に我々が元気を頂く場面も。これからも地域やお客さまと共に元気を発信していきたいと考えています。

継続的活動

息の長い活動で 地域と共に成長を目指す



詳しい活動内容は、WEBをご覧ください。

コベルコ建機 CSR

検索

<http://www.kobelco-kenki.co.jp/csr/index.html>

事業を展開している地域社会との共存共栄に向けて、社内から多くの提案が生まれ、活動を実施してきました。それらの活動を推進し、維持するために「コベルコ建機CSR基金」を設立し、継続的な支援体制をつくっています。続けることで地域との関係も深まり、社会での信頼と存在感の強化にもつながっています。

2006 ▶ 2007 ▶ 2008 ▶ 2009 ▶ 2010 ▶ 2011 ▶

CSR基金 による 海外活動	アンコール・ワット復興を支えるカンボジア人の育成	カンボジア							
	促進中心小学校への支援	中国(成都)							
	西南交通大学・神鋼奨学金制度	中国(成都)							
	フィリピン孤児院の運営・活動維持の支援	フィリピン							
	マレーシア森林保護活動	マレーシア							
CSR基金 による 国内活動	河川の清掃、養護学校生徒へのジェットスキー体験等	熊本							
	中学生レスキューロボットコンテスト	広島							
	大垣HIRO学園支援	岐阜							
	福岡・どこでん行く隊	福岡							
地域 イベント の参加	しながわ夢さん橋	東京							
	祇園商工フェスティバルへの参加	広島							
国内での 地域活動	コベルコラグビーフェスティバル	兵庫							
	大垣HIRO学園との交流	岐阜							
	近隣小学生の写生大会	兵庫・熊本							
	花壇の手入れ活動	東京							
	花いっぱい運動	岐阜							
	地域清掃活動	各地域							
	ペットボトルのキャップ回収	各地域							
海外での 地域活動	慶興神鋼小学校への支援	中国(彭州)							
	植林活動	中国(成都)							
	衢州市常山県新昌郷対塢小学校への支援	中国(衢州)							
	西南交通大学・神鋼奨学金制度	中国(成都)							



1 チェンナイ日本人補習校のKCEI 工場見学

■コベルコ コンストラクション イクイブメント インディア(インド・チェンナイ)

コベルコ建機グループのインド現地法人コベルコ コンストラクション イクイブメント インディア(KCEI)は、2011年11月12日にチェンナイ日本人補習校の生徒とその家族を招いて、ショベルの生産工場の見学と写生大会を開催しました。普段、間近で見る機会がほとんどない大きなショベルがどんどん組み立てられていく工程を見て、子どもたちだけでなく保護者の方々も興味津々の様子でした。写生大会では、完成したばかりの大型ショベルを一生懸命に観察しながら絵を描く子どもたちが印象的でした。



2 植林活動

■成都神鋼工程機械(集団)有限公司など3法人(中国・成都)

成都市に拠点を構える3法人は、2010年より毎年地域の植林活動を行っています。2011年からはJICA(独立行政法人 国際協力機構)と四川省の共同プロジェクト「四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクト」に協力し、震災で崩れた山の整備と植林を行っています。2012年3月にも北川県で植樹祭が行われ多数の従業員が参加。桜や枇杷、胡桃の木を植樹し、従業員同士の貴重な交流の場にもなりました。私たちはこうした活動がさらに広がり、緑豊かな地域が少しでも増えることを願っています。



3 アンコール・ワット復興を支えるカンボジア人の育成

■コベルコ建機(株)東京本社(カンボジア・シェムリアップ)

アンコール・ワットは近年、観光客の急増による深刻な環境汚染と遺跡の損傷に悩まされています。1980年から遺跡の修復と調査、そして環境保全に取り組んでいる上智大学アンコール遺跡国際調査団は、資金的な援助のみならず、同国にとって貴重な財産であるこの遺跡群をカンボジア人自らの手で修復・保全するために、教育や技術指導をはじめとした人材育成のサポートも行っています。コベルコ建機グループは、その理念に共感し、2006年からこの活動の支援を続けています。



4 相談室の設置

■杭州神鋼建設機械有限公司(中国・杭州)

杭州神鋼建設機械有限公司の従業員も多く入居している経済開発区の閑潮団地には、出稼ぎ労働者も多いため、仕事や家庭の悩みを気軽に相談できる心理カウンセリングの相談室を設置し、団地入居者の心のケアをサポートしています。また、趣味やコミュニケーションの場として、活動室も設置。団地に入居する多くの方々に喜ばれています。これらの活動は住民をはじめ、近隣企業などからも高い評価を頂いています。これからも、活気あふれる団地になるように支援を続けていきます。



環境・社会への貢献を称え、優れた活動を表彰するCSR賞制度

CSR賞とは社会環境の視点において、各年度ごとに顕著な功績や貢献があった組織、団体、人物を表彰するもので、2007年度から開始した制度です。活動を称え、今後も一層活動に励んでいただけるように賞するとともに、活動を周知させることでコベルコ建機グループ全体のCSR活動がさらに活性化することを目指しています。

5 東日本コベルコ建機 大展示会 「職場体験コーナー」

■受賞者：東日本コベルコ建機CSR委員会

毎年秋に行われる千葉縣市川市での展示会で、「職場体験コーナー」を設け、子どもたちにサービスマンとして油圧ショベルの部品取り付け作業をしてもらいました。戸惑いながらも、道具を使った作業に集中し、作業後にはとても満足した様子でオペレーターシートに座って、記念撮影に応じてくれました。将来の日本の建設機械業界を担うであろう子どもたちに、建設機械に触れる機会を与えたことが評価され、今回の受賞に至りました。



6 慶興神鋼小学校との地道な交流について 〈玉浦小学校(岩沼市)との交流に発展〉

■受賞者：中国法人CSR委員会

中国法人CSR委員会は3年前の四川大地震から再建した慶興神鋼小学校との地道な支援と交流を行ってきました。東日本大震災発生直後には児童たちが恩返しをしようと、募金活動を始め、義援金とともに励ましの言葉をつづった手紙を中国法人CSR委員会が預かりました。同委員会は、義援金と手紙を渡すため宮城県岩沼市の玉浦小学校を訪問し、両校の橋渡し役を務めました。これまでの地道な活動と心の交流が評価され、今回の受賞に至りました。



7 花いっぱい運動

■コベルコ建機(株)大垣事業所

コベルコ建機(株)大垣事業所では、「事業所内を美しく」を合言葉に「花いっぱい運動」と題した活動を行っています。事業所の従業員が数十名集まり、昼休みの時間を使って、事業所内や地域の方が行き交う周辺の道路際に季節の花を植えています。春と秋にはそれぞれ、夏季の花、冬季の花への植え替えも行っています。季節感を楽しめる心づかいとして、従業員のみならず、地域住民の方々にも大変喜ばれています。地道な活動ではありますが、これからも継続的に活動を行ってまいります。



9 東海・東南海・南海地震を想定した津波対策

■トーヨースギウエ(株) 高知支社高知サービスセンター

高知サービスセンターから行政指定の避難場所までは、海に向かって約1kmの距離があり、津波の場合には避難が難しいと考えています。そこで、社員をはじめ近隣住民の人命を守るため、2011年9月に整備棟屋上まで駆け上がれる螺旋階段と緊急避難施設を設けました。また、2ヵ月に1度、近隣住民に呼びかけ避難訓練を行い、通路障害物や携帯避難用品などの確認や、啓蒙活動を行っています。今後も定期的に避難訓練を重ね、防災意識を高め地域の安全確保に努めていきます。



8 ショベル試乗体験

■コベルコ教習所(株)全国教習センター

全国11カ所あるコベルコ教習所では、それぞれの地域で定期的に近隣の小学生や地域住民を招いたショベルの試乗体験会や写生大会を行い、地域との交流を深めています。尼崎教習所ではテレビ放送をきっかけに、ホームページや直接教習所にリクエストがあった子どもたちを十数名招いて、2011年7月10日に「ちびっこ試乗会」を開催しました。夏の暑い時期での開催でしたが、子どもたちは目を輝かせながらショベルに乗り、笑顔は絶えず、大変楽しんでいただいた様子でした。



10 しながわ夢さん橋

■コベルコ建機(株)東京本社

東京本社がある大崎周辺における花壇の手入れ活動から広がった縁で、地域の住民や企業の交流イベント「しながわ夢さん橋」に2008年から出展し、今回で4回目を迎えました。イベント当日は、ミニショベルの実機展示やラジコンクレーンを使ったお菓子吊りゲームなどを準備しました。ブースには多数の方に来場していただき、日常ではふれあう機会が少ない近隣住民の方々との貴重な交流の場になり、大変喜んでいただけたようでした。これからもこの活動を継続していきたいと考えています。



ステークホルダーとの関わり

支えてくれる人とずっと

製品づくりの安全・安心を高度に進化させるとともに、多方面からのサポート体制を整えることで、ステークホルダーからの期待と信頼に応えていきます。



世界合同品質会議



サービス技能大会



サービス技能大会

品質保証

「メイド・バイ・コベルコ」 顧客の信頼に応える品質づくり

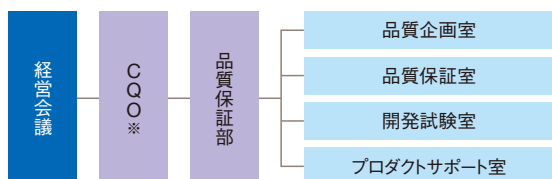
コベルコ建機グループでは「メイド・バイ・コベルコ」の旗印のもと、高まるお客さまの要求に応えられる品質づくりに、グループ全体で取り組んでいます。

■品質理念

信頼される技術、製品、サービスを提供し、社会に貢献するとともに、社員並びに会社の繁栄に寄与する。

- 品質重視の姿勢を貫く
- グローバル品質を追求する
- 予防活動を徹底する

■品質保証体制



※CQO=Chief Quality Officer(品質最高責任者)

予防保全活動成果発表会

顧客満足度向上を目指して予防保全活動に取り組んでいます。お客さまへの予防保全策の提案を通じ、機械の稼働率向上や性能維持を図ります。活動の進化・活発化のため、2011年11月26日に予防保全活動成果発表会を開催。東日本コベルコ建機(株)、西日本コベルコ建機(株)、また、海外からはダヤ・コベルコ(インドネシア)のサービス代表者が集結しました。



ユーザーサポート

現場で働く建機も 手厚いケアでサポートする

国内で培ったノウハウをもとに、地域の特性やニーズに合わせたサービスマン研修を世界中で行い、グループ全社でサービス力向上に取り組んでいます。また、e-ラーニングやサービス技能大会などで、さまざまな角度から人材の育成を行うとともに、稼働機管理システムを活用した提案型サービスの実施などにより、お客さま満足度向上に努めています。

稼働機管理システム

コベルコ建機グループ独自の遠隔稼働機管理システム「MERIT」は、油圧ショベルが発信する稼働状況や位置情報、点検情報などをリアルタイムに届け、建機の稼働率向上に役立っています。また、お客さまと稼働機情報を共有し、メンテナンスの提案などを行うことで、故障による休車時間を減らし、さらなる稼働率の向上を目指しています。



サービス技能大会

国内外のサービス拠点から選抜されたサービスマンが、その技能や知識を競い合う「サービス技能大会」を毎年開催しています。技能向上や技術伝承が促進され、お客さまの安心・信頼へつながるだけでなく、サービスマン自身のモチベーション向上へも役立っています。今後も継続して行い、技術を磨いていきます。



職場づくり

安心・快適な労働を目指し 職場環境を整備する

従業員が心身ともに健康で安心して働ける職場環境づくりを進めています。活動の内容は、生産工場における安全衛生活動や従業員の体力づくり、メンタルヘルスケアなど、職種や地域の特性に合わせて多彩に展開しています。すぐに大きな効果が得られる活動ばかりではありませんが、少しずつ着実に推進することが最も重要なことだと考え、継続して行っています。

安全衛生活動

コベルコ建機(株)広島事業所と大垣事業所では、安全衛生委員会を組織し、毎年安全衛生計画を作成。新入社員や職長への安全衛生教育やリスクアセスメント活動、職場のパトロール、献血の呼びかけなど、活動は多岐にわたり、全従業員が一体となって災害・疾病未然防止および健康づくりの活動に取り組んでいます。また、こうした活動はグループ会社でも取り入れています。



安全パトロールの様子

メンタルヘルスケアの取り組み

「安全でいきいきと働ける職場環境づくり」を目指し、新入社員や管理職を対象にメンタルヘルス教育を行っています。円滑な人間関係や前向きな気持ちを育むために重要な、コミュニケーションの教育には特に力を入れています。また、一般社員を対象としたセルフケア研修のほか、休職者が円滑に職場復帰できるよう、産業医・職場関係者と共に支援体制を整え、働きやすい職場づくりを推進しています。

体力づくり文部科学大臣賞受賞

コベルコ建機(株)広島本社は、2012年2月に体力づくり優秀組織表彰 文部科学大臣賞を受賞しました。この表彰は、地域や職場における保健・栄養の改善およびスポーツ・レクリエーションの普及運動(体力づくり運動)を推進し、顕著な成果をあげている組織を表彰する制度です。

広島本社では、16年前から「腰痛による休業者“ゼロ”」を目標に、毎月1回、運動指導士が各フロアを巡回し腰痛予防体操を行ってきました。腰痛の原因となる柔軟性を改善する体操を中心に、最近では手足を使った頭の体操なども行い、バラエティーに富んでいます。習った体操を休憩時間に実践する人も多く、現在では腰痛による休業が大きく減少しました。また体育館には、エアロビクスや筋力トレーニングができる設備を設けた上、従業員と家族と一緒に体力づくりができる環境整備も進められました。



人づくり

人を育て、環境を整え 社員からも愛される企業へ

会社にとって貴重な財産である社員一人ひとりが、個人の能力を最大限に発揮できるように、グローバルな人材育成に取り組むとともに、多様な人材が互いに価値を尊重し合い、安心して働けるようなさまざまな仕組みづくりを整えています。重要なステークホルダーのひとつである社員からの信頼向上に努め、今後も快適な環境づくりに取り組んでいきます。

社員研修制度の充実

各自がパソコンで学べるeラーニング制度では「貿易管理」「企業秘密管理」などの研修を通じ、社員のコンプライアンスに対する意識向上を目指しています。また最近では海外事業の拡大に伴い、海外現地法人スタッフに対する教育にも力を入れています。2011年秋には「日中異文化マネジメント研修」を実施し、各社から選抜された中国人スタッフと日本人スタッフが共同で課題に取り組みしました。研修を通じ、互いの国の文化や習慣への理解を深め、グループとしての一体感を醸成することができました。

仕事と生活の両立支援施策—育児・介護—

2011年度より、生産拠点における一斉休暇取得日を年2回から4回に拡充するなど、有給休暇の取得を推進し、仕事と生活の両立支援を進めています。既に法定を上回る育児休業制度などを整備していますが、現行制度の課題・改善点を洗い出し、さらに活用しやすくするため、2012年度から労働組合との話し合いの場を設けることになりました。また、2011年度より介護に関する支援としてNPO団体「シーケア」と提携し、従業員が介護に関する相談を無料で受けることができるようになりました。

安全で健康的な職場づくりに やりがいと喜びを実感

加登 朝子

コベルコ建機(株) 総務部 広島総務グループ
アシスタントマネージャー



VOICE

33年間、職場ぐるみの衛生活動に取り組んできました。働きやすい職場づくり、熱中症予防、献血の推進など、さまざまな活動の中、1998年労働衛生部門で労働大臣表彰を受賞。その後、2003年、2004年のメンタルヘルスマodel事業所の取り組み。そして今回、体力づくり優秀組織表彰で文部科学大臣賞受賞という評価をいただき、皆さんの健康を共に考えサポートできたことに大きな喜びを感じています。体力づくりでは開発部門の腰痛既往歴者が多いことから、職場でのストレッチ体操を開始し、腰痛予防とリラクゼーション効果で業務の効率アップにつながり、実施フロアも9ヵ所に増加。いずれの活動も上層部のご理解と社員の皆さまのご協力の賜物と思っています。これからも、生産性の高い事業所の一員として、少しでもお役に立てるよう努力していききたいと思います。

コーポレートガバナンス／コンプライアンス

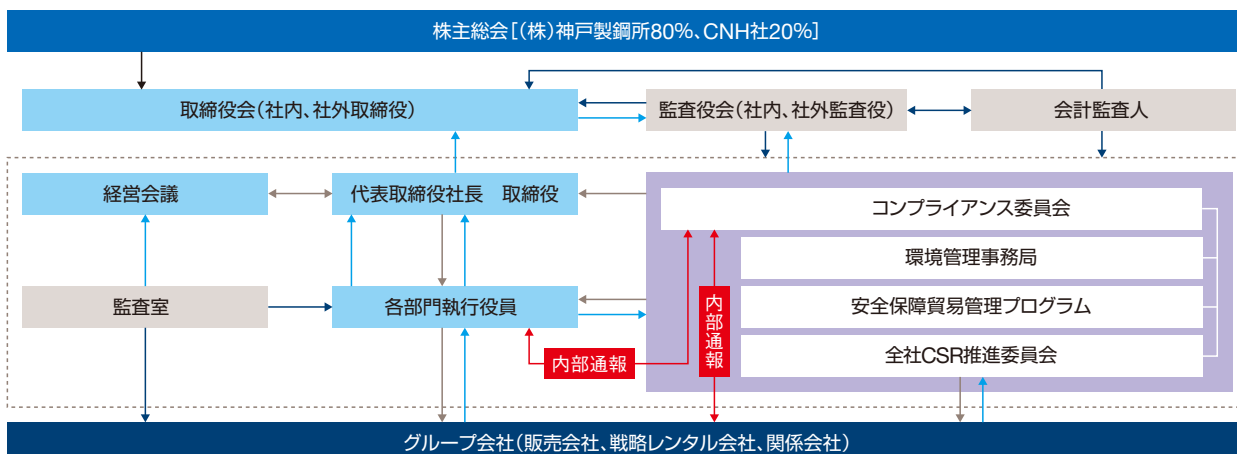
企業の社会的な役割と責任を果たすとともに、企業価値を最大限に高めるため、グループ全体でのガバナンス体制を整え、法令遵守の徹底を図っています。

■ コーポレートガバナンス体制

コベルコ建機グループは、コーポレートガバナンス体制を構築し、事業を展開する国や地域での法令遵守はもとより、社会常識を逸脱することがないように、コンプライアンスの徹底を図っています。

また、企業としての浄化作用を促進し、健全な企業風土を維持するための仕組みとして、「内部通報システム」を設け、法令・企業倫理・行動基準に違反することによるリスクの顕在化や、早期に問題を把握し対策を講じることに努めています。

■コーポレート・ガバナンス／内部統制システムの模式図（2012年4月現在）



■ コンプライアンスへの取り組み

コベルコ建機グループは、企業倫理と企業の社会的責任が強く必要とされていることを認識し、企業経営上の法令遵守はもちろんのこと、コンプライアンス活動を継続して推進しています。活動の柱として、基本方針とコンプライアンス5原則を掲げ、社会的責任を果たすよう努めています。

■基本方針

- ①私達はあらゆる企業活動において関係法令及びこの行動規程を含む社内諸規定を遵守し、企業倫理と社会常識から逸脱しないよう行動します。
- ②私達はあらゆる企業活動において人権を尊重し、人種、性別、職業、年齢、国籍、社会的地位、宗教、身体的障害、言語、出身地等に対する差別を行いません。
- ③私達はあらゆる企業活動において当社と利害関係にある全ての人達との間で公正な取引を行います。
- ④私達は常に高い倫理観に基づき行動し、反社会的な行為や会社の名誉や信用を損なう行為を一切行いません。
- ⑤私達は常に安全性高く、地球環境の保全に十分配慮した商品を提供し、併せて顧客に喜ばれるサービスや必要な情報をタイムリーに提供します。

■コンプライアンス5原則〈社会の常識を守る〉

- ①ルール違反・不正をしない。
- ②ルール違反・不正があった場合には、隠さない。
- ③ルール違反・不正を発見した場合には、直ちにコンプライアンス責任者に報告する。
- ④ルール違反・不正について報告した者は決して不利益を受けない。
- ⑤ルール違反・不正に対し、即時に是正・防止策を実行し、的確・迅速に公表する。

■ コンプライアンス委員会

コベルコ建機グループでは、企業活動における法令や倫理の遵守活動を高めるため、取締役会から独立した機関としてコンプライアンス委員会を設置しています。より公平で透明性の高い組織にするため、社外の委員も含めています。

■ 個人情報保護および企業秘密管理

「個人情報保護法管理規程」や「個人情報保護法ポリシー」、「企業秘密管理規程」、「情報システム管理規程」などを制定し、グループ全体の管理体制を整備しています。また「個人情報取扱マニュアル」をもとに社内研修を定期的に開催し、個人情報や企業情報の保護意識向上に努めています。

■ 内部統制・リスク管理

企業におけるマネジメントの透明性を高めるため、リスク管理や内部統制の整備に尽力しています。「規律意識の高い企業風土」の構築を目指して新リスク管理活動を推進し、現場レベルのリスクの洗い出しや対策立案など、組織風土にまでさかのぼって改善を行っています。

■ 「社員のための行動手引き」

これまで利用していた(株)神戸製鋼所の「社員のための行動手引き」をもとに、コベルコ建機グループ用に「社員のための行動手引き」を新たに制作しました。23項目からなるコンプライアンス事項を網羅し、実際に発生した事例も紹介しています。社員が日常業務を遂行する際に、自らの行動が法令を遵守しているか、また社会規範を逸脱していないかを常に考えてもらうための手引きです。

コベルコ建機グループの概要

●会社概要

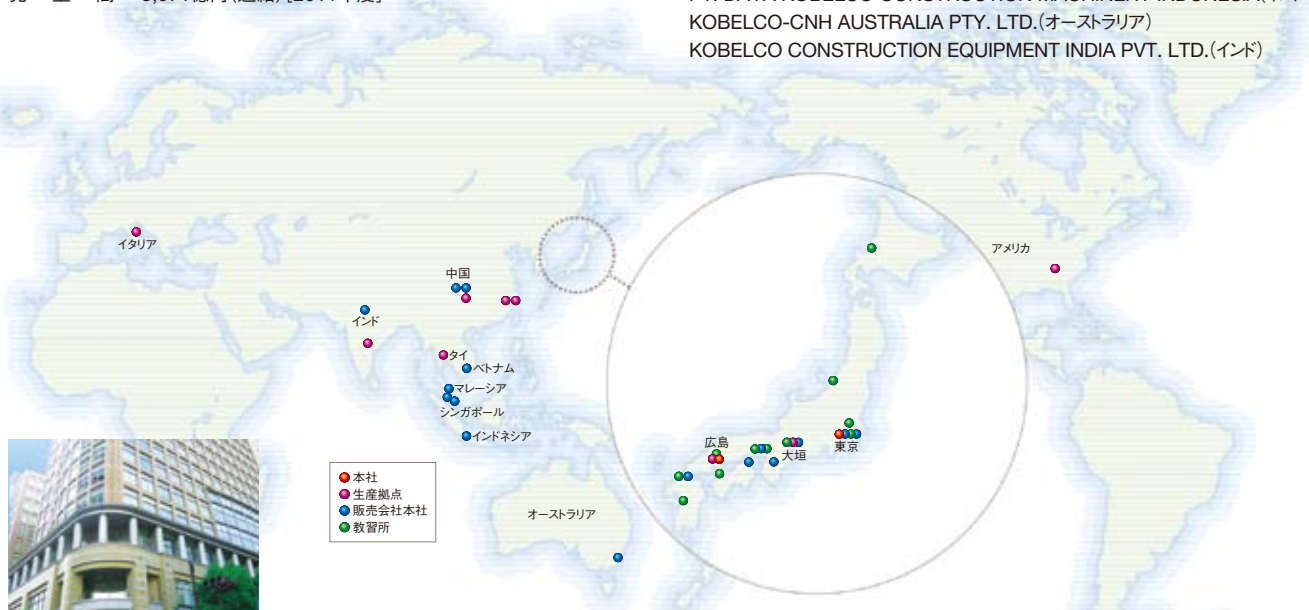
会 社 名 コベルコ建機株式会社
 英 文 社 名 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO.,LTD.
 創 立 1999年(平成11年)10月1日
 事業所所在地 □東京本社
 〒141-8626 東京都品川区東五反田二丁目17番1号
 TEL:03-5789-2111
 □広島本社(広島事業所)
 〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港二丁目2番1号
 TEL:082-943-5321
 □大垣事業所
 〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7
 TEL:0584-89-3104
 U R L <http://www.kobelco-kenki.co.jp>
 資 本 金 160億円
 代 表 者 代表取締役社長 藤岡 純(ふじおか じゅん)
 事 業 内 容 建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
 従 業 員 数 983名(グループ総数7,009名)[2012年4月1日時点]
 売 上 高 3,071億円(連結)[2011年度]

●国内法人

東日本コベルコ建機(株)、西日本コベルコ建機(株)
 コベルコ建機エンジニアリング(株)、ユタニサービスサプライ(株)
 コベルコ建機インターナショナルトレーディング(株)、コベルコ教習所(株)
 コベルコ豊田通商建機ホールディングアジア(株)、中村リース(株)
 トーヨースキウエ(株)、(株)ササイ、(株)ワイズヨシハラ、(株)常南

●海外法人

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AMERICA LLC.(アメリカ)
 NEW HOLLAND KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY S.p.A.(イタリア)
 成都神鋼工程機械(集団)有限公司(中国)、成都神鋼建設機械有限公司(中国)
 成都神鋼建機融資租賃有限公司(中国)、杭州神鋼建設機械有限公司(中国)
 神鋼建機精密機械(杭州)有限公司(中国)
 THAI KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY LTD.(タイ)
 KOBELCO INTERNATIONAL (S) CO., PTE. LTD.(シンガポール)
 RICON PRIVATE LIMITED(シンガポール)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MALAYSIA SDN BHD(マレーシア)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY VIETNAM CO., LTD.(ベトナム)
 PT. DAYA KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA(インドネシア)
 KOBELCO-CNH AUSTRALIA PTY. LTD.(オーストラリア)
 KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD.(インド)



東京本社



広島本社(広島事業所)



大垣事業所

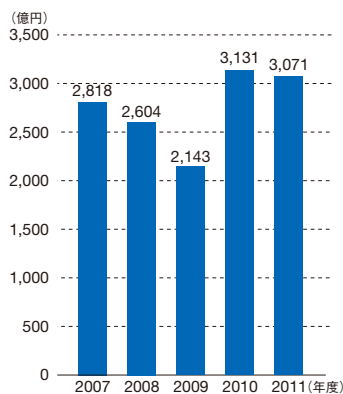


東日本コベルコ建機(株)

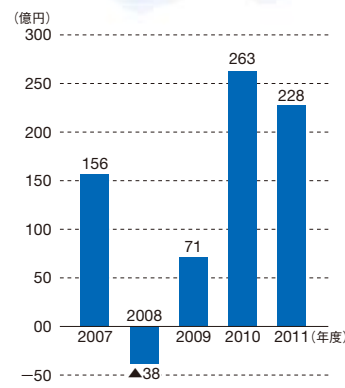


西日本コベルコ建機(株)

●売上高推移



●経常利益推移



編集後記



全社CSR委員会委員長
中田 雅彦

誇りと喜び

5月22日、東京ではスカイツリーが開業し、広島ではGECと五日市新工場が開業した。共に革新を繰り返し激変の時代を乗り越えていく。CSR活動も社会の変化と共に少しずつ変化していく。広島大学の岡本副学長の言葉「コベルコ建機グループのCSRは本物だ」を深く胸に刻み、一人ひとりが誇りと喜びを感じる、身の丈にあったCSR活動を末永く続けていきたい。



CSR推進グループ
岩本 篤

小さなことから、こつこつと。

一言でCSR活動と言っても、ゴミ拾いから中国での学校建設まで幅広く活動を行っています。昨年は「小さなことから、こつこつと。」というスローガンのもと、初心に帰り、花植えやペットボトルのキャップ回収など手軽にできる活動への参加・推進を行ってきました。本誌を読んでくれた一人でも多くの方がCSR活動に興味を持ち、参加していただけることを願っています。



感じています、新鮮!

小さな風。きっと最初はそこから始まる。
その風が共鳴しあい大きなニーズに成長する。
私たちは小さな風に耳を澄ます、感じとる。
人にもっと優しい技術の道を切り拓くために。
新しさと提案に満ちたマシンづくりを。
新風を感じ、帆いっぱい捉え、また新たな旋風を呼ぶ。
マシンと人間の新しい関係が生まれる。

"Feelin' Fresh!"は、何よりお客さまの現場を重視する
「ユーザー現場主義」の姿勢を貫くことを誓う
私たちのコーポレート・メッセージです。

コベルコ建機株式会社 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

東京本社:〒141-8626 東京都品川区東五反田二丁目17番1号 ☎03-5789-2111
広島本社(広島事業所):〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港二丁目2番1号 ☎082-943-5321
大垣事業所:〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 ☎0584-89-3104

<http://www.kobelco-kenki.co.jp>